第３学年英語科学習指導案

日　　時　　平成１６年9月３０日(木)　５校時
学　　級　　３年Ａ組
　　男子１３名　女子１５名　計２８名
場　　所　　３年Ａ組教室
授 業 者　　盛　内　広　美

1　単元名　　Ｕｎｉｔ４　Ａｎ　Ａｍｅｒｉｃａｎ　Ｒａｋｕｇｏ－ｋａ

2　単元について

日本文化の事例として落語をトピックとした単元である。Starting Out では、日本文化を紹介している英語パンフレットの中に書いてある、落語での扇子の使い方を読むという形で落語への関心を持たせ、Dialog は健の家に滞在中のカナダ人のエレンとの週末の予定についての対話で、英語落語に行くという流れになる。そして Reading for Communication では Bill Crowley 氏の演じる英語落語の小話（「まくら」）の１つを紹介している。内容は飲食店での注文の仕方の日米の相違についてと、日本語と英語の言語表現の食い違いについてである。

この単元の目標は、疑問詞＋不定詞（how to …）と It is …for－to～の文の形・意味・用法を理解し、表現できるようになることである。日頃から日本と異文化の違いについて関心を持っている生徒が多いので、日米の相違についての題材は、生徒たちには興味を持って取り組める教材である。

3　生徒の実態および指導について

全体的に予習をしっかりしてくる生徒が多く、学習への取り組みも積極的な生徒が多い。音読練習には全員が意欲的に取り組み、ペアでの練習、暗唱、発表にも頑張って取り組む。低位の生徒も音読には意欲的で、自主的に発表するようになってきた。一方、英文を書く力は個人差が大きいため、暗唱・視写のいずれかを各自に選択させて取り組ませたり、作業の分量を低位の生徒には減らしたりと配慮しながら指導している。

学習指導要領に示された［英語］の目標には「英語に慣れ親しむ」ことがあげられている。生徒がどれだけ英語に触れ、慣れ親しむかによって、基礎・基本の定着も図れることになる。本校の研究テーマである『基礎・基本の定着を図ることを重点として確かな学力を育む』ために、研究仮説である(１)「１時間の授業の中に「読む・書く」という学習活動場面を設定する」(２)「生徒が自己肯定感（自信）を持てるような指導過程を工夫する」取り組みを授業の中で大事にして進めてきた。沢山の英語を「読み・書き」させながら、わかる・できるという自信をつけさせていくことで確かな学力が身につき、主体的に学習に取り組む意欲や態度が形成されていくだろうと考えた。英文が読めるという力は４領域の中でも基本的な力であり、読めなければ書くことも聞くこともできない。その基本の力がつけば英語学習に自信を持って取り組むことができると考え、可能な限り英語に触れさせながら、音読に重点を置いて指導してきた。

本時では、数多く口頭練習や音読を行いながら文法を理解させ、口をついて英語が出てくるくらいまで繰り返し練習させ、褒めて自信をつけさせるとともに、自分の言葉として使える英語を増やす機会としたい。また、「読む」活動と「書く」活動をうまくつなげることにより、学習事項のより確かな定着を図りたい。

4　単元の目標

(１)　「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
(２)　「It　is …for－to～」の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。
(３)　英語で語られる小話を読んで、内容を理解できる。

5　指導計画（ Unit 4　　総時間数　７時間）

(１)　Starting Out (p44)　・・・・・・・・・・・・１時間
(２)　Dialog (p45)　　・・・・・・・・・・・・１時間　(本時)
(３)　Reading for Communication (p46-48)　・・・２時間
(４)　Listening Plus 4 (p49)　・・・・・・・・・・・１時間
(５)　Speaking Plus 3 (p50-51)　・・・・・・・・・１時間
(６)　Multi Plus 4 (p52-53)　・・・・・・・・・・・１時間

6　本時の指導

(１)　本時の目標

①　基本文（It　is …for－to～）を用いて、自分のことを述べたり、相手に尋ねたりすることができる。

②　本文を正しい発音・アクセント・イントネーションで読むことができる。

(２)　本時の評価規準

観点	評価規準	具体の評価規準			評価方法（場面）
		A(十分満足できる)	B(おおむね満足できる)	C(支援の手立て)	
関心・意欲・態度	英語の対話を聞いて、理解できないところがあっても、推測するなどして聞くことができる。	理解できないところがあっても、推測や質問するなどして聞き続け、概要を理解しようとしている。	理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続ける。	理解できないときには、キーワードや理解できる語から推測してみるよう指導したり、ヒントを与える。	活動の観察 生徒の応答
理解の能力	本文を正しい発音・アクセント・イントネーションで読むことができる。 本文を読み、概要を読み取ることができる。	場面や心情に応じて、情感を込め滑らかに音読することができる。 本文を読み、概要を英語での T-F, Q-A で答えることができる。	教科書で学習した本文を、発音やアクセントに注意しながら正しく音読できる。 本文を読み、概要を読み取り、日本語でそれを説明することができる。	正確に音読できるように、単語の発音やリズムなどを練習させ、単語から句、句から文へとステップアップしながら指導する。 文中の重要な語や表現を確認し、理解の上で大切にすべき文に下線を引かせるなどして指導する。	活動の観察 生徒の発表
表現の能力	基本文（It　is …for－to～）を用いて、自分のことを述べたり、相手に尋ねたりすることができる。	相手に自分のことを述べたりしながら、対話を滑らかに進めることができる。	基本文を用いて自分のことを述べることができる。	基本文の形・意味・用法を確認し、基本的な文型を暗記し、何度も口頭練習させながら指導する。	活動の観察 生徒の発表

知識・理解	基本文（It　is …for－to～）を用いて自分のことを述べる文を書くことができる。	It's …for－to～の文に、いろいろな形容詞を用いて自分のことを表現する文を書くことができる。	It's …for－to～の文に、提示された簡単な形容詞を用いて文を書くことができる。	基本文の形や、形容詞の意味を確認しながら文の作り方を指導する。	ワークシート

（3）本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 ５分	１　挨拶	１　挨拶	
	It　is …for－to～の文の形・意味・用法を理解し、表現してみよう。		
展 開 ４０分	２課題解決 基本文の学習	1) 基本表現の確認 2) 基本表現の練習	1)ALT と JET の対話を聞き、文の意味を推測させる。 2)何度も繰り返し練習させる。支援の必要な生徒には語順を確認させながら,簡単な形容詞を与えて指導する。
	３本文の内容理解	1) 聞き取りの観点の確認 2) model reading を聞く。 3) 内容確認	・教科書は閉じさせ LD の対話を聞くことに集中させる。 3)英問英答、日問日答、英問日答を適宜使い分けながら本文の要点を確認する。また低位の生徒には内容を把握できるよう最後に１文ずつ解説する。
	４本文の音読	1) 新出単語の練習 2) ALT について１文ずつ音読 3) CD を聞きながら各自で音読練習 4) 全文を choral reading 5) Read and look up をしながら、本文暗唱 6) LD を使って Role Play 7) ペアで練習 8) ペアで発表	2)イントネーションや句切れを意識して、できるだけ文単位で読ませる。はじめはゆっくりと、最後には自然な速度で音読できるように意識させて取り組ませる。 3)不確実な単語の発音を確認できるように CD を流す。 6)場面や心情を考えながら、できるだけ教科書を見ずに取り組ませる。 7)相手に届くような声の大きさを意識させる。
	５　本時のまとめ	５　本時のまとめ 教科書本文を書く。	５　個々に暗写・視写の単位（語、句、文）の目標を設定させて書かせる。
終結 5 分	６次時の予告 ７挨拶	６　次時の学習内容と家庭学習の確認 ７　挨拶	６　教科書本文の音読（不足な人）と、復習プリント・ワークを課題とする。

（4）評価の観点

① 基本文（It　is …for－to～）を用いて、自分のことを述べたり、相手に尋ねたりすることができたか。

② 本文を正しい発音・アクセント・イントネーションで読むことができたか。